

滝口杯が都協会公式戦に昇格

滝口宏名舎会長が1月30日、クモ膜下出血のため亡くなられました。81歳でした。2月3日告別式。同日葬儀（共に東京・千日谷会堂）には当会からも金子誠会長以下多数会員が列席し、ご冥福をお祈りしました。

故滝口名舎会長の当会およびフェンシング界全般にわたる多大な貢献になにか報いる方策はないものか。幹事会としていろいろ考えた末、お名前を永遠に残すために公式戦に「滝口杯」の名をいれたことになりました。新たに大会を設けるのは年間スケジュールその他の関係で難しく、10月10日のパーティーには欠かさず出席され、笑みを絶やさず滝口先生でした。



そのため、現在行われている東京都フェンシング協会主催のベテラン選手権大会にその名をかぶせることとし、7月4日行われた都協合理事会に当会から提案、全員一致で賛同を得ました。同大会は隔年、早大道場で開催されていますが、今年11月3日に行われる大会から「滝口杯争奪ベテラン選手権大会」という名称で実施されます。

同大会は毎回早大道場で行われており、第1回大会で川名会員（サーブル）石田会員（エペ）が初代チャンピオンとなり、第7回大会では成田会員がフルールエペの2種目制覇を遂げるなど、当会とのなじみも深

く滝口先生のお名前をいただくのに最もふさわしい公式戦といえます。なお10月10日のOB戦は新しい形で継続されます。

滝口宏略歴 昭和11年、早大文学部卒業。同27年、教授。学生課長、学生担当理事、体育局長を歴任。同56年退官。日本考古学会委員長。フェンシング関係では日本協会副会長、関東学連・全日学連会長。わが部創立以来、長年にわたって部長をつとめていただきました。

稲光会総会 幹事は全員留任

平成4年度の稲光会総会が4月23日（木）、母校内の大隈ガーデンで開催されました。金子誠会長をはじめ川名宏美監督、成瀬正澄幹事長補佐ら会員多数および現役全員が出席。3年度の会計報告、活動状況報告、現役新入生紹介等があった後、会長以下幹事全員留任が満場一致で決定しました。

稲光会報

平成4年7月15日発行
編集 早稲田大学稲光会
発行者 北原輝久 宏
題字 滝口
印刷 藤王友社
第15巻第21号

1 ページ…種目別入替戦導入
リーグ戦来年度から
2・3 ページ…リーグ戦・入替戦詳報
4 ページ…滝口杯・公式戦に昇格

リーグ戦が変わります

来年度から、種目別入替戦を導入！

リーグ戦の制度が変わります。これまでの総合成績による順位決定、入替戦出場というシステムに代わり、種目別入替戦が導入されたものです。これはエペ、サーブルの強化を図るという目的で平成4年3月に行われた関東学生フェンシング連盟総会で決定を見たもので、来年度から実施されます。これによって一種目だけでも勝つとその種目のみ上位リーグ入り（反対に負けると下位リーグ落ち）ということになり、上下の入れ替えがよりひんぱんになり、リーグ戦がもっと面白くなるかと期待されています。

昨年、今年の例を新制度にあてはめて解説しました。昨年、わが部は拓大との入替戦サーブルの部に快勝しています。が、結局はフルール、エペで敗れたために二部に甘んじてしまいました。種目別入替戦制度によれば勝った時点でサーブルのみが一部復帰（拓大は2部落ち）を果したことになるのです。そして今年のリーグ戦ではサーブルだけ1部のピストで戦い、フルール、エペは2部で戦うということになったのです。

今年のリーグ戦、1部は大混戦でした。最下位校はフルール法大、エペ中大、サーブル拓大でした。従って新制度による入替戦にあてはめるとフルール法大・1部、エペ中大・1部、サーブル拓大・1部という組み合わせになります。あの名門

法大、中大が入替戦出場という事実を想像するだけでも愉快ではありませんか。ましてやあの独特の雰囲気、ガタガタと崩れ、名門の2部落ちという事態も考えられるのです。来年度からは毎年、1部から5部までの間でこうした組み合わせの入替戦が行われるためリーグ戦が大変に興味深いものになります。もちろん上位リーグ校は下部リーグ落ちを免れようと必死になるでしょうし、下部リーグ校は得意種目のいっそうの強化を計って上位リーグ入りを狙います。そこに選手強化、質の向上という新制度本来の効果も期待できるわけです。

近い将来、わが部の「1種目だけの1部復帰」という朗報をお届けできることでしょう。

新入部員紹介

今年の特選入学は、インターハイ個人サーブル優勝の羽田光二君。バネのある下半身が魅力で、大きく成長する可能性を秘める好素材です。このほかにも学院から3名、本庄からも1名といずれも有望な経験者がそろい、来年度の1部復帰へ大きな力となってくれそうだ。
(①出身 ②学部学科 ③フェンシング歴 ④抱負)



●羽田光二
①鹿児島南高校 ②人間科学部スポーツ科学科 ③インターハイ個人サーブル優勝 ④一年生が多いので、みんなで部の雰囲気盛り上げたいと思います。



●渡辺靖仁
①早大学院 ②政経学部政治学科 ③関東大会出場（団体） ④早く大学で通用するフェンシングを身につけたいと思います。



●市川武志
①早大学院 ②法学部 ③都大会エペ4位、関東大会出場（団体） ④学院メンバーで大学を強くしたい。



●斎藤朋之
①早大学院 ②第一文学部 ③関東大会出場（団体） ④とにかく強くなりたい



●小室猛士
①早大本庄 ②第一文学部 ③関東大会出場（団体） ④4年間で大きく成長したいと思っています。



熱戦が展開されるリーグ戦、来年から大きく様が変わります

入替戦——1部の壁は厚く

母校早大は3年連続して2部優勝、そして3年連続拓大との入替戦に臨みましたが、やはり1部の壁は厚く、今年はフルール、サーブルに連敗し0-2で敗れる結果に終わりました。なお

学連新会長に佐野雅之氏

関東学生フェンシング連盟会長滝口宏先生（当会名誉会長）の死去（4面参照）による後任会長に日本フェンシング協会副会長佐野雅之氏（慶大出）が就任しました。2月の学連監督会川名宏美会長が推薦し、3月の学連総会で満場一致の支持を得たものです。

▼リーグ戦 2部3年連続総合優勝も反省点多し

無念！母校は三度び拓大の軍門の前に降る結果となりました。平成4年度リーグ戦（4月19日初日）、入替戦（6月7日、法大体育館）がこのほど終了。わがチームはリーグ総合優勝（3年連続）、1部拓大との入替戦に臨みましたが、フルール、サーブルに連敗して夢成りませんでした。

今回2部落ちして4年目になりました。初年度こそ日体大に負けたものの、以降は3連覇と、わが部が限りなく1部に近い戦力を有したチームであることが実証されたわけですが、それでも今年のリーグ戦を振り返ると反省点が多々あります。その最大のものは精神的な甘さ。それがリーグ戦初戦に出てしまいました。対明大戦。中盤まで6-4と優位に立って勝利目前となったのですが、ここでいわずにやみくもに勝負を急いで逆転負けを喫してしま

つたのでした。明大に最後まで勝負を捨てない執念があつたかという点、それよりもわが部が勝手に焦ってコケてしまったという後味の悪い試合だったのです。エペでもっと悲惨な試合があつたかもしれません。これも初戦の対農大戦。トップ藤倉が3-1とリードしたにもかかわらず簡単に追いつかれ、結局5-5の両負け。2番手山岸もリードを守れず5-5の両負け。両エースの思わぬつまずきでベンチの空気がすっかり重くなり、以後はすっかり農大ベース。終ってみれば4-10

〔川名〕



↑堅実な試合ぶりに定評のある土屋（左）

▼入替戦 3年連続で対拓大カードに完敗

3年連続して同一カードによる入替戦。3度目の正直を期待したのですが、フルール3-9、サーブル4-9とフタを開けてみると3年間で最も歯が立たない完敗に終わってしまいました。フルールのところは昨年、あとワンポイントのところまで追い込む接戦を演じたのですが、今年はいきなり5連敗。中盤2連勝してやや盛り返したものの、その後2連敗を二度くり返しての大敗。最大の理由は拓大に今年から中国人留学生叶青（ようせい）選手が加わったことです。かつて世界選手権などで上位に食い込んだり、層の厚い中国選手権で優勝したりしている実力者。峠を越したとはいえず、日本の学生フェンシング界ではまだまだ通用する力を持つており、一部リーグでもコンスタントに「ノルマ2勝」をこなしていたものです。彼の加入で拓大にシ

選手権などで上位に食い込んだり、層の厚い中国選手権で優勝したりしている実力者。峠を越したとはいえず、日本の学生フェンシング界ではまだまだ通用する力を持つており、一部リーグでもコンスタントに「ノルマ2勝」をこなしていたものです。彼の加入で拓大にシ

が安心して伸び伸びとプレーしてしまいました。その分、わが方には焦りが生じ、その差が予想より大きなスコアになってしまったわけですね。この「叶（よう）効果」はサーブルにも持ち込まれ、

拓大はすっかり勝ちムードに乗ってしまいました。昨年圧勝した種目だけにサーブルに勝つて何とかエペ勝負に持ち込みたいと選手たちは精一杯頑張ったのですが、残念ながら試合の流れは完全に拓大のもの。4-1の結果は拓大が5勝1敗と確実にマッチポイントをものにしていくところにそれがよくうかがえます。

残念な結果が出てしまいました。これをいい経験とし、来年からの種目別入替戦で一矢を報いべく出直します。

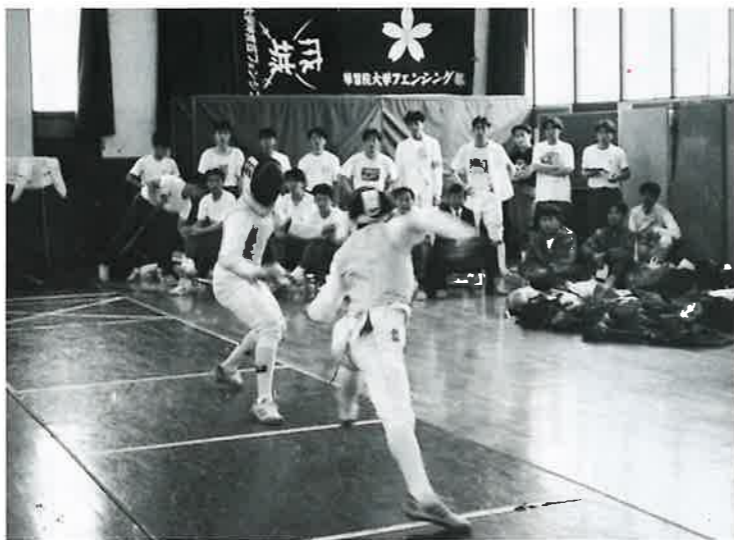
〔川名〕



↑主将として頑張った山岸（左）



←フルールのみ出場に終わった藤倉



↑フルール、サーブルで活躍した山口（左）

慶大、2部に復帰！

2年間、3部リーグで戦った慶大ですが、今回の入替戦で2部最下位校国学大に2-0（フルール16-10、サーブル9-7）と快勝し3年ぶりに2部へ復帰しま

した。米年からは同じ土俵で春はリーグ戦、秋は定期戦と年に2回戦うことになり。好敵手の復活にどうぞ拍手を！

〈男子リーグ戦成績〉

- ▽フルール
- 早 大7-9 明治大○
 - 早 大10-6 国士大●
 - 早 大14-2 国学大●
 - 早 大11-5 東農大●
 - 早 大6-11 立教大○
- 〔順位〕
- ①明大5勝②早大3勝2敗
 - ③国士大3勝2敗④東農大2勝3敗⑤立大2勝3敗⑥国学大5敗
- 〔個人成績〕
- 山岸20戦17勝3敗、藤倉16戦12勝4敗、土屋20戦11勝9敗、山口10戦6勝4敗、保谷11戦2勝9敗、羽田3戦3敗
- ▽サーブル
- 早 大10-6 立教大●
 - 早 大13-3 国学大●
 - 早 大9-7 国士大●
 - 早 大12-4 明治大●
 - 早 大11-5 東農大●
- 〔順位〕
- ①早大5勝②東農大4勝1敗③立大2勝3敗④明大2勝3敗⑤国学大1勝4敗⑥国士大5敗
- 〔個人成績〕
- 山岸20戦16勝4敗（最多勝）、土屋20戦15勝5敗、山口20戦12勝8敗、羽田20戦12勝8敗
- ▽エペ
- 早 大4-10 東農大○
 - 早 大11-5 明治大●
 - 早 大12-4 国士大●
 - 早 大11-4 国学大●
 - 早 大11-4 立教大●
- 〔順位〕
- ①東農大4勝1敗②早大4勝1敗③立大3勝2敗④国士大2勝3敗⑤明大1勝4敗⑥国学大5敗
- 〔個人成績〕
- 山岸20戦16勝3敗1分け（最多勝）、藤倉20戦15勝4敗1分け、土屋20戦8勝11敗1分け、保谷19戦10勝9敗、市川1戦1敗
- 〔3種目総合順位〕
- ①早大②東農大③明大④立大⑤国士大⑥国学大

〈女子リーグ戦成績〉

- ▽フルール
- 早 大5-14 亜細亜大●
 - 早 大6-13 外大●
 - 早 大5-14 東大●
 - 早 大5-14 大東大●
- 〔順位〕
- ①早大②東大③大東大④立大⑤外大⑥亜細亜大⑦東大⑧国大

- 〔個人成績〕
- 横山21戦11勝10敗、高田21戦9勝11敗1分け
- 〔2種目総合順位〕
- ①埼短大②東大③大東大④早大⑤外大⑥亜細亜大⑦東大⑧国大

〈入替戦成績〉

- 拓 大2-0 早 大
- ▽フルール
- 成 田V-1 土
 - 越後谷V-1 藤
 - 土 佐V-1 山
 - 土 佐V-4 山
 - 叶 V-1 山
 - 成 田V-1 山
 - 土 佐V-4 藤
 - 越後谷V-4 山
 - 叶 V-1 山
 - 土 佐V-1 山
 - 成 田V-1 山
- ▽サーブル
- 小 林V-1 羽
 - 井 上V-4 土
 - 宮 崎V-1 山
 - 叶 V-1 山
 - 宮 崎V-1 山
 - 井 上V-4 土
 - 小 林V-1 山
 - 真 田V-1 山
 - 上 V-1 山
 - 宮 崎V-1 山